

平成 29 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 小 田 中 学 校

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

-
- 1 アクティブラーニングの視点を踏まえた授業改善と家庭学習の定着に取組む。 2 主幹教諭を中心にミドルリーダーの育成と若手教員の育成に取組む。
-
- 3 不登校対策重点校として不登校生徒の支援や関係機関との連携によって課題解決に取組む。 4 学校業務改善と勤務時間の適正化に取組む。
-

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
1 研究推進担当中堅職員を先進校視察に2回派遣すると共に他の教員も市内のアクティブラーニング研究発表会に参加させるなどの取組を行った。また、自らの授業を省みる機会として互いに授業を参観する週間(互観週間)を設定した。校内研究会は、アクティブラーニングのリーダー2人と授業者が準備段階から協議して取り組み成果を上げた。 2 家庭学習定着のためeライブラリーを活用した家庭学習ノートの取組を充実させ、放課後チャレンジ学習、教科補習に取り組んだ。 3 特別支援コーディネーターを中心に特別な支援の必要な生徒の情報を共有し、支援計画等の作成に反映させた。	1 次年度はアクティブラーニングの学びの機会をさらに増やすと共に今年度の取組を来年度の実践に生かしていきたい。 2 家庭学習ノートの形態や家庭学習習慣の定着の方法については、研究推進委員会を中心に改善策を検討する 3 校内体制を見直し、他の委員会と連携協議できるように考えている。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
1 オープンスクールを活用して道徳の公開授業を実施した。 2 道徳教育や人権尊重の立場に立ち、障害者の立場に立った人権講習会等を実施した。 3 性教育講演会等を実施し、生命の大切さを知ると共に大人として成長していくことについて学ぶ機会を持った。 4 トライやるウィークをとおして職業体験の機会を得ると共に生徒の発表をとおして中学生として勤労の大切さや社会貢献について考える機会を持った。	1 オープンスクールを通じて道徳の公開授業を実施したが、新校舎に移転する機会にオープンスクールの日程を見直す。 2 道徳的な規範意識の向上やなりたいたい自分といったキャリアプランニング能力の向上のため、次年度は「未来への扉」の積極的な活用を考えている。 3 命の授業や性教育講演会等を通して、命の尊さを知ることができたので、今後も継続していく。 4 トライやるウィークや生徒会活動等を通して地域を学ぶことと地域に貢献できる機会を増やしていきたい。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
1 「みんなで考える尼崎の健康」の事業を活用して食生活について学ぶ機会を持った。 2 PTAと連携し、中学校弁当の試食会を実施した。 3 「いきいき運動部活動」を活用し、研修を行った。また、平日週1日、休日月2日の「ノ一部活デー」を実施している。	1 食育については、家庭科の授業を通して、また、市の事業と連携して継続して取り組んでいく。 2 中学校弁当の試食会は、新1年生の保護者には好評であった。移転後は、校内でのパン販売を取りやめることから、中学校弁当の利用を勧めていく。 3 部活動については、生徒がやりがいを持ってしっかりと活動できている。教員の負担によるところも大きいのが、複数顧問制や各部が「ノ一部活デー」を実施することで、少しでも負担を減らしたい。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1 定期的に校内安全点検を実施し、学校での安全確保を図っている。 2 自転車安全教室を実施し交通ルールの遵守と安全について学んだ。 3 避難訓練を実施し、防火や水辺の事故について学ぶと共に広域の地震訓練ではシェイクアウト訓練を行った。また、保健委員の代表者が救急救命の研修を受けた。今後は、「1. 17を忘れない」地震避難訓練を実施する。	1 校内は老朽化しており、また移転を控えていることから満足な修繕ができなかった。 2 自転車事故の防止や交通ルールの遵守の意識は、部活動の自転車での移動マナーの改善に結びついたことから、今後も継続して指導していく。 3 「1. 17を忘れない」防災訓練では、インフルエンザが流行していたこともあって、シェイクアウト訓練と放送での講話および生徒向けの避難マニュアルの学習となったが、生徒がじっくり考える時間となり、成果があった。今後もこのような防災学習の機会を大切にしたい。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1 学校評議員会を開催し、経営方針や教育活動について意見を伺う機会を3回持った。 2 学校だよりやHPによって、保護者、地域への情報発信に取組んだ。 3 「定時退勤日」を週2日設け、両日またはどちらか1日は定時に退勤するようにしている。 4 地域から図書ボランティア、放課後学習ボランティアとして、また、特別支援学級にボランティアを受け入れ協力を得た。 5 不登校生徒の事案や虐待事案では、SSW等関係機関と連携し対応している。 6 主幹教諭が中心となって若手教員対象の勉強会を実施した。	1 学校評議員会を学期に1回開催し、意見をうかがった。特に、学力向上について学校の努力が求められた。 2 情報発信は、学校だよりとHPの更新で実施し、成果を上げた。校舎開放デーを設けて、多くの卒業生が来校した。 3 「定時退勤日」の取組をより改善し、実践する。 4 図書ボランティアの方がやめられることから、次年度の編成に努めていく。また、新校舎になり、さまざまな場面で地域の協力が得られるようにしたい。 5 関係機関との連携を日常的に行っており、今後も継続していく。 6 引き続き若手教員の研修の機会を増やし、資質向上につなげる。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
教育目標「自ら学ぶ意欲を持ち、人間性豊かで、心身共に健康な生徒の育成」実現に向け、学力向上のために授業力の向上や家庭での学習習慣の定着、道徳やキャリア教育の充実等生徒の「知」「徳」「体」の成長を支援する。		教育目標に対する各教科や、道徳、行事などのアプローチは、一定の成果が認められるが、教育目標の実現に向けた体系的な教育デザインを作成する。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
1 今年度をアクティブラーニングを学ぶ年度と位置づけ、若手、中堅教員を中心に様々な研究会に参加し、研修している。また、研究推進委員長を講師として、校内研修を行った。 2 不登校対策重点校として、専門家の指導を受けつつ、不登校生徒の学校復帰に向けて取組んでいる。		1 先進校視察や、実践校の研究授業への参加、校内でのアクティブラーニング研修等今年度の学びを次年度の実践につなげていく。 2 不登校研修には、大学院教授を5回招き、全体的な研修やケーススタディなどを行った。また、サテライトに参加する生徒も増え、不登校に対する理解は深まっているが、全体的な人数は減少しておらず、今後もさまざまな取組を継続していく。	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果		課題と改善策	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>・チャイム入室で授業を始め、生徒の学習状況を把握し、学習意欲を高める指導に努め、わかりやすい授業を行っている。 ・授業では、先生と生徒の目線が同じで笑顔でした。毎日の積み重ねと印象的な場面でした。 ・教育学習内容は充実しているかもしれないが、成果がまだ出ていないのではないかと。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・人間関係はとても大切だと思う。思いやりのある中学生を育てて欲しい。 ・トライやるウィークなどを体験し、学校では見られない姿もあり、体験学習の意義を実感した。 ・心の教育を充実させるための方法が十分に確立していないように思う。キャリア教育について十分とは言えない。</p>	2.5
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>・食育は、心も身体作りに大切、食べ物大切さをより深く知る授業を取り入れて欲しい。 ・食育は統合前にも取り組まれていたが、学校だけではなく、家庭に食べる大切さが培われていないような気がした。 ・食育をどこでどのようにやっていくか、もっと考える必要がある。体育・健康な体作りについては、十分に取り組んでいる。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・登下校及び学校内の安全教育は十分にされている。防災教育についても十分に行われている。不審者や事故等への対応をしっかりと行って欲しい。 ・登下校時の交通マナーも日々の声かけなどで「おはよう」とあいさつすると良い返事が返ってきてさわやかである。 ・自転車は、マナーで乗るのではなく、しっかりと交通ルールを教えていくことが大切である。</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・新校舎になり、地域も変わるので、地域との連携を早々に行うことが良いと思う。 ・細やかに学校での様子、地域での様子を交換できた。学校だよりなどで活動の様子を知ることができた。 ・保護者・地域から信頼される取組をやって欲しい。</p>	2.5
<p>■教育目標</p> <p>・教育目標を教師自らが良しとし、それを日々の実践に生かそうとし、研究テーマ、研究課題についても十分に考えられ、実践に生かされている。 ・具体的な教育目標を掲げ、保護者などにも共通の意識を持ってもらう。</p>	3
<p>■研究テーマ</p> <p>・不登校生徒については、その後ろにいる家族にも目を向けられ、なかなか前進は難しいが、確実に光が見えている。 ・長くこつこつと続けて成果を上げて欲しい。</p>	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B